

## IRアナリストについて

- ・企業は通常自らの会社について多くの情報を持っている。企業における IR（インベスターズ・リレーションズ）は情報優位者である。
- ・これに対して、企業の発信する情報を受け止め、投資家が知りたい情報を企業に要求し、それらを加工して、将来の予想に役立てるのがアナリストの役割である。このインベスターサイドにたつアナリストが情報優位者になれば、投資家の信頼も高まろう。
- ・しかし、現実にはビジネスの場面では、こうした双方向のやりとりは限られている。大手の機関投資家であっても求める企業のカバレッジは限られるからである。
- ・機関投資家がいなくても、さまざまな企業を見る個人投資家がいるのではないか、という考え方もあるが、それは建前であって現実には不十分である。上場会社は 3500 社ほどあるので、小さい会社には十分目が届かない。大半の企業の IR 情報は、企業の努力にもかかわらず、市場には必ずしも十分届いていないといってもよい。
- ・企業が発信した情報に対して、それは本当か、なぜそうなのか、と問うことによって良い緊張関係を生むアナリストの役割は重要である。しかし、それを担うアナリストは少ない。
- ・ここを補完するアナリストが求められる所以である。私は、その役割を担うアナリストを、IR アナリスト（インディペンデント・リサーチ・アナリスト）と呼んでいる。
- ・企業の IR との架け橋になるという意味も込めて、私自身 IR アナリストとして日々活動している。
- ・IR アナリストレポートは、会社側の立場に立つものではない。企業をよく理解して、投資に役立てようという人のために書いている。1 人のレポートでは不十分である。1 社について、3 人のアナリストからレポートが出てくると、本当に役立つようになるだろう。
- ・1 人でも多くのアナリストが、IR アナリストとして参加してくることを期待している。